

■インドネシア：PLN、発電所の入札方法を変更

国営電力会社（PLN）は 2012 年 4 月 11 日、発電所の入札手順を変更し、従来、技術仕様書と入札金額を同時に評価していたものを、今後は技術仕様書の内容で企業をふるいにかけ、入札金額によって落札者を決定すると発表した。中国企業が多数落札したこれまでのプロジェクトでは建設期間の遅延や稼働後の機器の故障が相次いでいることから、技術評価を重視することになっている。第 1 次クラッシュ・プログラム（2006～2009 年：非石油系燃料の発電所を合計 1,000 万 kW 建設するプログラム）では、2010 年までに全てのプロジェクトが完了する予定であったが、用地取得の問題と共に中国企業による建設の遅れで、2014 年にずれ込む見込みである。同社の関係者は「日米欧の企業に発注したプロジェクトでは稼働後に問題は起きていないが、中国企業に発注したプロジェクトでは、稼働後に発電機やバルブなどの故障が相次ぎ、資材調達や建設業者を監視する体制が必要である」とコメントしている。